

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川越市児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日 ～ 令和6年12月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数)	59
○従業者評価実施期間	令和6年12月10日 ～ 令和6年12月27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数)	43
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い保育士配置による安心安全な保育体制。	児童発達支援において、配置基準を児童2人に対し保育士1とし（国基準4：1）、更に加配が必要な児童に対し必要な保育士数を確保している。	安心安全だけでなく、保育士に対して年間を通じて様々な研修を企画実施し、保育の質の向上を図る
2	多職種チームによる支援体制。	看護師、療法士、心理相談員が積極的に児童発達支援や親子教室に関わり、こどもへの支援だけでなく親支援においてもチームで対応している。	今後は当センター事業だけでなく地域の事業所、保育所、幼稚園等に対し、多職種チームで支援者支援をしていく。
3	充実した相談支援体制。	発達相談の入り口である一般相談、専門職による専門相談、地域の保育所や幼稚園等への巡回相談、福祉サービス相談をする計画相談など幅広いニーズに対応できる体制を整えている。	それぞれの相談に適切に対応できる各種専門職の継続的な確保と質の向上に取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	働きたい保護者のニーズへの対応が不十分。	・療育時間が10:00～15:00である。 ・半日保育（10:00～12:45）の日が多い。 ・親子登園日等保護者に来ていただく日が多い。	現状では人員体制、運営等の様々な課題があり、改善が難しいところもあるが、インクルーシブと合わせて検討していく必要がある。
2	医療的ケア児やてんかん発作の可能性のあるこどもの送迎が不十分。	・専用車両がない。 ・看護師が乗車できる体制ではない。	園児送迎バスのあり方や看護師の勤務体制について検討していく必要がある。
3			